

2008年6月17日

マレーシア国における石油・ガス探鉱区への参画について

三菱商事は、6月17日にマレーシア・サラワク州沖の海上探鉱区 SK310 を取得し、ニューフィールド・サラワク・マレーシア社(Newfield Sarawak Malaysia Inc: ニューフィールド・エクスプロレーション社の100%子会社)、ペトロナス・チャリガリ社(PETRONAS CARIGALI SDN. BHD: マレーシア国営石油会社ペトロナス社の100%子会社)と共に、マレーシア国営石油会社ペトロナス社と生産分与契約を締結しました。同鉱区の権益比率は以下の通りとなっております。

ニューフィールド・サラワク・マレーシア社	: 30% (オペレーター)
ペトロナス・チャリガリ社	: 40%
当社	: 30%

SK310 鉱区内及び近隣鉱区では既にガスが発見され生産が開始されており、また、海上インフラも整備されていることから、当社は同鉱区を、探鉱活動延いては開発活動において有望な鉱区とみております。

当社はマレーシアを液化天然ガス(LNG)事業のコア地域の一つと考えており積極的に事業展開を図っております。旧来よりサラワク州での3つのLNG合弁事業(マレーシアLNG社、マレーシアLNGデュア社、マレーシアLNGティガ社)に直接・間接的に出資すると共に、マレーシアLNGティガ社向けの原料ガスの開発・生産事業に参画、LNGの生産・販売迄のバリューチェーン全体に関与して参りました。

また、2006年にはLNGの原料ガス調達の強化を図るべく、サラワク州沖探鉱区 Block 2C に参画、今回取得したSK310 鉱区はこれに続く重要な鉱区と位置づけております。同鉱区で探鉱活動が成功しガスが発見された場合は、マレーシアでの天然ガス資源の新規発見により、LNG合弁事業も強化されるものと期待しております。

当社は今後もマレーシアでの石油・天然ガス探鉱・開発事業を積極的に展開し、マレーシア国における天然資源の更なる発見・開発に貢献すると共に、同国のLNG事業拡大に寄与していきたいと考えております。

以上